**片思いはない 2016 05 01**

**ヨハネ14:23-29 牧師:安達均**

主の恵みと平安が豊かにそそがれますように！

1966年2月、小学校１年の時だった。　全日空機羽田沖墜落事故というのが起きてしまった。133名の方が亡くなった。　亡くなられた方々、その家族の方々は、本当に、悲しい出来事だったと思う。私は小学校１年生、ものごころついてはじめての大きな飛行機事故で、いまでもかなり鮮明にそのときの報道や、東京湾に浮かんでいた、機体の破片などの写真を覚えている。

墜落事故は、私が洗礼を受けてから、まだ数ヶ月後の出来事だった。　私はクリスチャンになったのだから、将来、私が乗る飛行機には、そういう事故が絶対に起きないのだろうか？　とかあの133名の中には、キリスト信者はいなかったのだろうかという疑問が生じた。

しかし、クリスチャンだった叔父は、戦争中に操縦していた飛行機が、アメリカ軍の戦艦から打たれて、墜落し台湾沖で亡くなったことを父から聴かされ、クリスチャンになったからといったって、飛行機が墜落して死ぬようなことはないということではないとすぐに思うようになった。

聖書の話に入って行こう。先週は互いに愛せますか、というタイトルだったが、今週は「片思いはない」というタイトル。　えっ、そんなばかな、キリスト教信者だって「片思いすることはありますよ」といわれるかもしれない。　片思いを経験したことがある方は、本当にそのつらさをご存知で、そういわれるのはわかるが、話しを最後まで聴いて欲しい。

イエスは、十字架にかかる前の晩、弟子たちに　「私を愛する人はイエスの言葉を守り、父はその人を愛し、イエスはその人のところに父と行き、いっしょに住む」といわれた。　「私を愛する」というのは、弟子たち同士で愛しあうこととは異なる。

今日の話しは、だれでも、イエスを愛する者ならば、父なる神がその人を愛してくださるということ。　そこには、私たちがイエスを愛しさえすれば、片思いはないということだ。。　片思いがないという、とてもハッピイな関係なのである。

男女関係であれば、お互い愛し合っている関係であることがわかって、ずっといっしょにいたいと思っても、すぐにいっしょに住めるような環境になるわけではない。　あるいは、互いに愛し合っていても、家族の制約などから、愛し合っている本人同士が結婚していっしょに住むことは許されないことだってある。

しかし、イエスとの関係は違うのだ。　ひとたび、だれかがイエスを愛するならば、父なる神とイエス、それは二人の人が来るということではない、三位一体なる神が来てくださり、いっしょに住んでくださるということ。

今日の福音書箇所26-27節には、父がイエスの名において、聖霊を遣わせ、また、イエスが平和を与えてくださる。　それは、世が与えてくださる平和とも異なるとも書いてある。

いったいどういうことなのだろうか。　イエスを信じ、イエスを愛するものになるということは、冒頭に述べたように、事故にあわないだとか、たいへんな目にはあわないということとは異なるのだと思う。

この世の信仰生活の中で、むしろ、たいへんなこと、厳しいことも経験することになるかもしれない。そのような境遇に会うにもかかわず、そこに、父なる神がイエスとともにいっしょにいてくださり、同時に聖霊がその場に遣わされている。　ルーテル教会が集中している熊本で、このたび、大きな地震があり、余震も続いている。

クリスチャンが多く住む町に、地震が起こり、大揺れとなり、経済的な困難が襲うこともある。あるいは、テロが起こることだってある。とんでもない悲惨な体験をすることだってある。　にもかかわらず、主なる神、イエス、聖霊がともにいてくださり、どんな肉体的な動揺を感じることがあったとしても、その場で、イエスが心の平安が与えてくださり、励まし、活力が与えられる。　安心立命を得られる。　またたとえこの世の命を落とそうが、主とともに永遠の命に生きることができる。

アーメン